

○ 災害等による畜産被害への取組事例

丹後家畜保健衛生所

○堀口美咲 種子田功

【はじめに】毎年、日本国内のどこかで災害が発生している中、丹後地域においても台風、大雨、高温多湿による暑熱、そして大雪による被害が生じている。過去5年間を振り返っても暑熱被害は毎年発生し、台風や大雨による土砂や浸水被害、大雪による畜舎の損壊等で飼養環境及び飼養衛生管理が破綻した場合、家畜の伝染性疾病等の発生リスクも高まる。そこで、家畜の生命、畜産経営を守るためこれまで取り組んできたことについて報告する。

【取組内容】①災害に備えた取組として、市町が作成しているハザードマップを活用した個々の農場の被害リスク評価、被害の発生を想定した情報収集と分析手法の確立、災害の発生が具体的に想定される場合の注意喚起。②災害が発生した際の取組として、初動時の情勢把握、現地立入しての対家畜、対施設での2次被害防止、地域災害対策組織と連携した対応。③災害発生後の飼養環境及び飼養衛生管理の回復、早期復旧に向けた伴走支援。

【まとめ】災害対応は行政機関の使命であり、数十年に1度の大雨災害が毎年のように発生している現状、家畜保健衛生所として伝染性疾病等の発生予防と併行しながら様々な災害等による畜産被害への対応が求められており、その役割は年々増していると考えられる。また、現在まで事例は無いものの、畜産従事者等が新型コロナウイルスに感染した場合に家畜の飼養管理や経営を如何にして守るかについても関係者間で詰めていく必要がある。